

第2760地区

豊田ロータリークラブ



『ロータリーに誇りと自信を！魅力あるクラブを目指して』

http://www.toyotarc.jp

本日の例会

第2421回

日時 平成22年4月1日(木) 12:30~13:30
場所 ホテルトヨタキャッスル
内容 クラブフォーラム
-今週の祝福-
会員誕生日 4月2日 井戸雅裕君
ご夫人誕生日 4月1日 松尾隆延君ご夫人 勝代様
4月3日 坪井敦也君ご夫人 千恵子様
4月4日 松井博文君ご夫人 順子様
結婚記念日 4月3日 荒木 徹・雅子 ご夫妻
4月3日 市川善英・裕子 ご夫妻
4月4日 鈴木元弘・知里 ご夫妻
4月5日 福田正夫・澄子 ご夫妻

前回の例会

第2420回

日時 平成22年3月25日(木) 12:30~13:30
会場 ホテルトヨタキャッスル
司会 会場委員会 伴 征雄君
斉唱 『我等の生業』
来訪者 豊田中RC 山下哲夫 様

会務報告 会長挨拶 岡田勝美 会長

皆さんこんにちは。今日は歴代のガバナーがお二人、隣にお座りになっておられますので私も緊張をしています。この後、片山PGにはお話をさせていただきますので、よろしく願います。

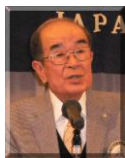
先週の例会後の夜に豊田地区の5RC会長幹事会が行われました。今回は次年度の会長、幹事も交えての新旧合同会議で、報告事項や提案事項などがありました。先ずは5RCが周年事業を行いますので、その日程等の報告がありました。既に中RCは終わりましたが、昨年記念事業としてチャリティーゴルフコンペが開催され、その一部を豊田市に浄財されました。次に豊田RCから提案をいたしましたRAの件です。豊田広域RACとして3年が経ちますが、各クラブのRAに対する考え方に温度差が生じ、非常に協力的なクラブもありますし、ちょっと後ろ向きのクラブもあります。その辺の調整をするところを設けたらどうかという提案をし、了承いただきました。近々に幹事が集まって、次年度以降どうするかをの会議をします。とにかくこのRAが育ってくれるように5RCで協力し盛り上げたいと思っています。また、豊田RCが幹事クラブを現在担っており、今後事務局を持ち回りにしようという案がありますが、中々何処も引き受けただけ不十分なので、また暫くは豊田RCで事務局を受けることで了解をいただきました。次年度の新世代委員長さんまたはRAの委員長さんはよろしく願います。以上で会長挨拶といたします。

幹事報告 天野勝美 幹事

- 例会変更のお知らせはお手元の資料をご確認下さい。
- 本日例会終了後「50周年実行委員会」がございませう。

卓話

担当 齋藤直美 君



卓話当番の齋藤です。3月4日にもここに立たしていただき、地区委員会報告をさせていただきました。卓話をご存じのように原理原則があるとと言われております。原則1「先ず自分でやれ。」原則2「自分の仕事をしゃべりなさい。但し自己宣伝は絶対いけません。」原則3「ロータリーについてしゃべりなさい。」と先輩たちから言われております。そういう点から言うと私は失格です。その代わり日頃から敬愛する片山直前 PG に卓話をお願いしました。それでは片山主水さんのご紹介をいたします。1939 年にお生まれになり、松陰高校、名古屋大学を経て 1968 年に弁護士のご登録をされました。1985 年には愛知県弁護士会の副会長を歴任され、1988 年から現在まで 20 年余名古屋地方簡易裁判所の調停員をお務めです。また、2001 年から現在まで愛知県公務災害補償審査会の会長もお務めということです。ロータリー歴は1972年に名古屋東南RCに33歳で入会されております。90~91年に地区の国際友好委員長を務められ、その後も地区WCS委員長、地区環境保全委員長、クラブ会長、地区クラブ奉仕委員長と、ほとんどが地区の委員長をお務めになっておられます。そして2006年には私のガバナー補佐をお願いいたしました。片山さんには我々クラブでは酒井さんが張り付いておまして片山さんに粗相のないように一生懸命に取り組んでいたのが印象的でした。2007~08年では地区ガバナーをお務めになり、その時のテーマが「持続可能な前進」でした。それでは片山さんよろしく願います。

ゲストスピーカー 片山主水 様(パストガバナー)

『親睦と奉仕はロータリーの両輪』



過分なご紹介をいただきました。思い起こしてみますと齋藤ガバナー年度の8人のガバナー補佐の1人でした。齋藤ガバナーの訓導の宜しきを得まして江崎PGに続き2人目のガバナーとなりました。このガバナーのときほどロータリーに対する情熱があふれていた時はないわけです。そして、スピーチもその時

が一番情熱があふれるものでした。生来口下手でありますので予め自称しておきたいと思ひます。齋藤ガバナーの時にご指導をいただきましたテーマが「原点帰帰」でありました。齋藤ガバナーの評価は、地区や地区の外ではずいぶんとこれまでのガバナーに比べて良かったです。それに続こうと色々やりましたが中々難しいです。よく考えてみますと齋藤ガバナーはオーラがありました。そのせいもあって江崎ガバナーと片山ガバナーの2人のガバナーが齋藤門下から出ることは大変稀有なことでした。また、ひょっとしてこの8人の中からもう1人ガバナーが出ますとこれは本当に初めてのことで、この未曾有の出来事もあるかもしれません。ということですのでガバナー時代の良いスピーチとはいきませんが願います。

本題は「親睦と奉仕はロータリーの両輪」であり、この理論は1994年のWCSの時から指導しています。齋藤PGの命令ですから後で残るような良い話をさせていただきますと思ひますが、その前に二点ほどご理解を願います。一つは人間の基本的な精神構造です。それはプラスが先ではなくマイナスに力点があることです。マイナスを癒すとプラスになる何かがないと人間の精神は耐えられないという法則があります。マイナスがあればプラスがある。ギブアンドテイクでなければいけません。昔からよく言われます陰陽の二

元論であります。それからもう一つは、RCの組織の基本構造にもご理解をいただきたい。ロータリーの本体はクラブ構造であります。それは人の集団ですから必ず目的があります。その目的が内向的であり、形で表しますと、全員の顔が見えるような円卓の関係ということです。クラブ構造自体も一方的ではありません。それから目的とはクラブの中で完結することです。すなわち外に出ないことです。完結して目的を達成してしまうことです。これが一つのクラブ構造(本体)の特色です。それから、中の会員はどうか？会員はフェロシップ関係でありフレンドシップ関係ではありません。そのフェロシップ関係とは何かと言いますと仲間的な結合です。ロータリーソングに「おいと呼ぼうよ♪」とありますが、「おい」と呼べる関係、俺とお前の関係＝これがフェロシップ関係です。これが心の繋がりであり非常に大事にする必要があります。それから、会員が個性を持ちつつ一体化する関係。すなわち、個性を持ちつつ同質に同化する関係です。従って親睦心のつながりが大事なこととなります。その親睦を大事に育て上げるために例会があります。その例会で頻りに顔を合わせる＝心と心を通わせるということこれが重要なことです。また、特徴にロータリーは開放的ではなく閉鎖的であるということです。また、別の見方からすると少数精鋭主義です。全体としてレベルが高い特色を持つのがクラブ構造なのです。そして、もうひとつにクラブの行動原理を考えますとそれは誠実に行くことです。それが積み重なって相互の信頼になってまいります。まとめると、このロータリーの歴史を見てみますと孤独でひ弱な一人の人間がいたとします。そのことがすべてのロータリーの始まりではないかと思ひます。これがクラブ構造の集団という方式をとったということです。ですから当初の中で完結をするということですので親睦をしましょう。心の安らぎを求めてロータリーを作ろうという動機の一つになったわけですね。また、仲間うちだけで取引が安心して出来るような職業の関連の運動目的を持ったわけですね。会員外の職業奉仕をすることではなくて、クラブの中だけです。ところがロータリーの6割以上は社会奉仕ですが、その社会奉仕ということを開鎖的または内向的なRCをそのままにして外交的なことをしたわけですね。そうしますと、構造的にはアンバランスになります。ところがそのアンバランスの調和をとって社会奉仕の外校的な部分もきちんと育てあげ、内部の構造も変えることなくフェロシップを重視したわけですね。これは今考えると懸命な選択でした。それからもう一つは例会原則です。例会を非常に重視することが原点です。一週間に一度必ず例会を開く。そして会員は必ず出席するのだという厳しい規制を取っているところは無いのです。これがロータリーの一大特色であり発展の前進の原動力になっています。

そこで本題の奉仕と親睦はどういう関係なんだということですが今日歌いました「我等の生業」ですが、「我等の生業 さまざまなれど 集いて図る心は一つ」＝我々の職業は多様多才であるけれども、集いて図る目的は一つだ」ということです。多様であるけれども目的はひとつ様である。この対比が素晴らしいのです。で、「求むるところは平和親睦 力るところは向上奉仕」＝やわらぎとは心の平安です。親睦とは人と人の関連です。ですから自分のことと他人のこの関係を言います。力るところは向上奉仕、向上は個人で自己研鑽して高めることです。奉仕は他人と関係の中で奉仕しようとのことです。求むるところと力るところの対比です。ですからあれだけの短い文章の中でも素晴らしい対比があるということです。そして最後に、「我等の集い 集いて図る心は一つ」と言って職業を取り上げて次に集いて図る＝例会のことを二度言います。例会大事ですよと言っています。この歌は高野辰之教授と岡野貞一という作曲家がコンビを組んでロータリーが依頼をされたのではないかと思ひます。この方々はよくここまでロータリーの核心をついた歌をお作りになれたと感心します。またこのような高名なお二人に依頼をしたことも素晴らしいと思ひます。お二人は「ふるさと」や「おぼろ月よ」、「春が来た」などなど有名な作品ばかりです。ですから、このことを思いながらソングを歌うと感慨深いものがあります。ところで親睦と奉仕の関係について私は両輪だと言っています。この両輪は左右のことだと思ひますが、ところが私はこれが前後の事を言います。なぜかと言いますと奉仕は前の輪、親睦は後ろの輪です。後ろの輪はエンジンに繋がっていますので活力が出ます。前輪は奉仕です。奉仕はハンドルで方向性や到着点を決める役目です。前輪は活力を後輪は後押しをする。奉仕は存在価値だと思ひます。

親睦はそのロータリーを支える土台だと思ひます。どちらが基礎かと言いますと親睦が基礎です。それがなければ奉仕も機能しません。しかし親睦は当初目的でありました。ところがその目的も間もなく外に向かって奉仕をするという新しい奉仕の目的で親睦の座を奉仕に譲っていると思ひます。奉仕はロータリーの希望の灯です。親睦は世間に対してさほど言うことはありませんから親睦の座を降りていると思ひます。親睦はロータリーの出発点であり奉仕は到達点です。それから、この両輪の力の入れ方はどうなんだと言いますと、言いにくいですが五分五分でいいと思ひます。親睦はほっといても楽しいが奉仕はそうはいきませんので五分五分とは言いましたがやや配分を考えてもいいと思ひます。最後に、私はガバナー時代に「出席しなければ親睦なし。親睦なければ奉仕なし。」という言葉をお聞きしました。これを私流に言い換えますと、「ロータリーの目的は奉仕である。奉仕は親睦から始まって、親睦は出席より始まる。」にしました。出席参加は親睦。奉仕のさらに上の岩盤のようなもので基礎の基礎です。それがないとロータリー自体が存在しなくなってしまう。最終的には出席しなければロータリーなしということです。まとめますと、ロータリーがクラブ構造を取りながら内向的なクラブ奉仕をとりながら外交的な社会奉仕を中に取り入れるこのバランスは非常に歪ですがこれを両方とも重視し、バランス良く持続可能な維持をすることが大事です。これが、懸命な舵取りです。そして、例会の重要性の認識を高めてください。最後の一言です。「例会出席はロータリーの種。親睦はロータリーの花。奉仕はロータリーの実。」です。ご清聴ありがとうございます。

ニコボックス

本日の当番 山田郁雄君



- 片山主水様(PG/名古屋東南RC) 多額のご投金をいただきました。
- 岡田勝美君・天野勝美君 片山PGのご来豊に心より感謝申し上げますと共に、卓話にご期待申し上げ投金いたします。
- 齋藤直美君 片山直前ガバナーをお迎えして、心より歓迎申し上げます。本日はよろしく願います。
- 杉浦敏夫君 本日の卓話、PGお二人のお話し楽しみにしています。先週末は次女に男児が生まれ、義母の傘寿の祝いをし、次男が1年の留学を終え無事帰国するなど、本当に嬉しい事が重なった1週間でした。
- 友情投金
下地正孝 井戸雅裕 荒木 徹 鈴木賢三 鈴木元弘
鈴木秀和 杉浦 毅 市川善英 白木 隆 鶴飼正男
福田正夫 伴 征雄 山田康二 永井英雄 藤村匡泰
宮戸優治郎 光岡新吾 渡邊寿也 孕石邦雄 奥田清仁
横山真久 片田直幸 赤松 明 杉浦秀明 梅村泰弘
河合弘義 小野雅道 坪井敦也 大山輝美 太田雄介
齋藤正吉 鈴木万衛 河木照雄 梅村正明 清水伸吉
丸井俊裕 鈴木隆太 藤井伸三 秋田敬治 早川文喜

●山田郁雄君 久しぶりのニコ当番、皆様のご協力が無事終えることができました。感謝を込めて投金致します。

出席状況 出席委員会 宮戸優治郎 君

例会日	会員数	対象会員	欠席者	出欠会員	出席率
3/25	84名	72名	18名	2名出	78.57%

先々週(3/11)の修正出席率 ... 100%

次回の例会

第2422回
日時 22年4月8日(木) 12:30~13:30
場所 ホテルトヨタキャッスル
卓話 河原秀紀君

豊田ロータリークラブ
〒471-0034 豊田市小坂本町1-4-12
Tel 0565-32-5555 Fax 0565-32-5559
E-mail office@toyotarc.jp HP http://www.toyotarc.jp